

### 第3回「教育を語り合う会」記録

日時:2025(令和7)年2月15日(土)9時30分～11時30分

場所:真鶴町民センター3階 講堂

参加者:51名(9グループ編成)

進行:塩田(真鶴町教育委員会:指導主事)

BGM:「Mana Manazuru」

(作詞;勝山千帆 作曲;MIDORI ボーカル;MIDORI)

#### 開会

・休憩、水分補給は自由。

#### 「教育を語り合う会」の趣旨等説明

##### ○趣旨

- ・後世に誇れるような、素晴らしい学校を町民みんなで創りたい！
- ・一貫教育校の意義について共通理解を図りたい！

##### ○気をつけたいこと

- ・この場は何かを決定する場ではなく、みんなで考える場であること。
- ・相手に何かを求めたり、責めたりする場ではなく、自分なら何ができるかを考える場であること。

#### 新しい学校づくりに向けて

- 「真鶴町小中一貫教育校建設基本構想・基本計画(案)」へのパブリックコメントに対して、多くの方々にご協力をいただき感謝している。
- 「基本構想・基本計画」は、新しい学校の建設に向けて、学校の規模や求められる機能など、学校の設計・建設の基本的な考え方を示したもの。今後、新校舎完成時の具体的な姿が明確になる基本設計、より詳細な設計や工事費の積算が行われる実施設計へと進み、2030(令和12)年4月の開校をめざしている。
- 新しい学校の基本理念である「半島まるごと学校」という言葉には、「学校施設全体あるいは半島を含めた町全体を学びの場として捉え、あらゆる空間が学びの場であり教育の場、心を育む場である」という想いがこめられている。
- 令和3年3月に出された「第2期 真鶴町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン 総合戦略」をもとに作成した、「7～15歳」の人口の推移を示したグラフ。令和6年は301人で、1学年の平均人数は約34人。10年後の令和17年には164人で1学年の平均人数がおおよそ18人。これから10年で、1学年の平均人数が約半分になると予想されている。
- 義務教育の9年間は、人格を形成する上で大切な時期であり、学力だけではなく、子ども同士の幅広い交流や多様な意見にふれ合うことで、コミュニケーション能力や多様な価値観、社会性、豊かな人間性などをバランスよく育むことができる。学校生活における様々な教育活動や成長の機会が、子どもの数の減少によって制限されることがあってはいけない。
- 真鶴町では「学びの連続性(タテの関係)」・「学校と地域との連携強化(ヨコの関係)」・「半島全体を学びの場とする新たな教育の創造(ナナメの関係)」の3つを基本コンセプトとして掲げている。タテ・ヨコ・ナナメの関係を機能させ、多様な学びを実現することで、子どもが夢中になる場や体験活動を意図的に創り出し、子どもの好奇心をかき立て、子どもの可能性を引き出す。また、「地域に深く関わった子どもは、地域を愛するようになる。地域の担い手になる。」と

という言葉にあるように、地域を支える人材を育てる。半島を含めた町全体が学びの場であるという『半島まるごと学校』の実現をめざしている。

### 導入ワーク

○テーマ「真鶴と真鶴の子どもたちの自慢」

○ねらい：緊張感をなくして、安心して発言できる雰囲気をつくる。

○流れ

- ①2人1組になり、簡単な自己紹介をした後、子どもや地域の自慢をし合う。お互いに話した後、グータッチ。
- ②会場を自由に歩き回り、5分以内にできるだけ多くの人とコミュニケーションをとる。

### ビジョンの共有

○テーマ「真鶴の子どもたちがどう育ってほしいか」

○ねらい：地域と学校が一緒に子どもを育てることを認識し、それぞれのめざす子ども像を共有する。

○流れ

- ①一人ひとりがテーマに対する思いを一つ、用紙に記入する。
- ②用紙を回収。くじ引き形式で無作為に抽出し、記入内容について全体に説明する。
- ③ホワイトボードに整理し、全体の意見として共有する。  
\*用紙に書かれた内容は次の通り。(カテゴリー化等は、後日事務局で行った。)

#### <相手の心を思いやり尊重する共生の心>

- ・人権感覚のアンテナがはりめぐる子
- ・思いやりの心をもってほしい
- ・元気(健康)で明るく、友達を大切にする子
- ・相手の心を理解して、自分の心を大切にしてほしい(相手を思いやる心)
- ・いつまでもあたたかい心を持ち続ける人
- ・「違い」を楽しみ、「違い」を尊重し、「違い」から学べる人

#### <他者と関わる・自分の考えを言える>

- ・自分と他者に興味を持てる人
- ・元気にあいさつができる子
- ・(活発に)意見が言える人
- ・いろいろな人とコミュニケーションがとれる子ども(こども同士、地域の大人、真鶴を訪問してきた人など)
- ・コミュニケーション力をつけて育ってほしい(小中一貫校になったら、自分の学年以外の人と関わることも増えるから)

#### <自立心をもって、自分で考え行動する>

- ・自分の好きなことを見つけて、その世界を大きく広げていく力を持つ人
- ・自分自身の興味・関心を持った上で、社会とつながることができる
- ・それぞれ自分が興味を持っていることに、1つでもよいので楽しみにできるように自信を持って行動する
- ・子どもらしく育ってほしい
- ・自分で考え決められる人

### <学んだことを社会で生かす>

- ・真鶴の地域(豊かな自然・親切な人・まつりなど)のかかわりを通して、社会力を身につけ、世界で活躍してほしい。また、真鶴を活性化・元気づけてほしい
- ・世界にはばたくような人
- ・かつて真鶴の石が江戸のインフラを形成したと同様に、真鶴の人材が未来の日本の社会を支える「礎(いしずえ)」になってほしい

### <夢をもってチャレンジし最後までやりとげる子>

- ・失敗してもへっちゃらな人(前向き、学び続ける、視点を変える) ・柔軟な子
- ・最後まであきらめない心 ・いろいろなことに挑戦する ・いつでも夢をもてる子
- ・「まあいいか!!それもいいか!!」と思う人 ・優しく元気でタフな大人になってほしい
- ・ヨーヨーせかいおうじゃ ・感謝の気持ちをもって何事にも挑戦できる人
- ・前向きに考える力

### <素直で豊かな心>

- ・素直な子 ・約束を守る子 ・感謝の心 ・ごみを捨てない子
- ・好き嫌いが無い ・心豊かで強い人 ・人権感覚をもった心豊かな人

### <地域を愛する子、ふるさとを大切にする子>

- ・真鶴町のことを知り、自然も人も大切に思う人になってくれたら嬉しいです
- ・自然の素晴らしさを感じる心を持ち、真鶴町を好きでいてほしい
- ・真鶴出身を誇りに思える人 ・真鶴で育ったことを誇りに思える人
- ・地域を愛する子 ・真鶴を愛し、真鶴のよさを語れる子
- ・自分のふるさとに誇りを持ち、自分や周りの人を幸せにできる人

### <元気・健康>

- ・健康に育ってほしい ・元気にそだってほしい ・元気な子

- 立場は異なっても、子どもの未来に前向きな願い・ビジョンを描いていることが確認できた。
- 参加者の意見を集約すると、「真鶴町がめざす子どもの姿(①多様性を尊重できる子 ②関わる力をもった子 ③創り出す力をもった子 ④発信する力をもった子 ⑤心の豊かな子 ⑥ふるさとを大切にする子)」に近づいた。

### ワークショップ

- テーマ「小中一体型の学校になったら、こんなことができるといいな(自分がしたいこと、みんなと一緒にできること)」
  - ねらい:共有したビジョンの実現をめざすにあたり、具体的な行動を考えることで、参加者の当事者意識を高める。
  - 協議の流れ
    - ①個人で考え、付箋に書く(1枚につき一つの考え)【10分】
    - ②グループで共有(同じものや似たものをグルーピングする)【50分】
    - ③全体で共有(いくつかの班が発表)【5分】
- \*付箋紙に書かれた内容は次の通り。(カテゴリー化等は、後日事務局で行った。)

## ◆「学びの連続性(タテの関係)」

### <異学年交流>

- ・たてわり班で遊ぶ・話し合う　・たてわり班で町内、お林などピクニック
- ・町の探検　・上級生と一緒に町探検　・いっしょにあそぶ　・中学生の人達が園児と遊ぶ
- ・あいさつ運動、清掃活動などを合同で行う　・みんなで給食　・みんなで食事会
- ・(月1回?)お弁当給食(好きなどころで)　・小中の人とごはんをたべてなかよくなりたい
- ・いっしょにごはんを食べる　・小1から中3まで一緒に調理し、一緒に食べる
- ・小6と中1の関係の強化　・全学年との交流会　・小1から中3まで一緒にアート作品を作る
- ・小学生へ中学生の生活がどんな様子かを伝える場を　・お楽しみ集会
- ・学年をこえた交流(あそび、教え合う)　・さまざまな年代の子どもたちの交流
- ・低学年と高学年の子どもの交流　・異学年交流　・小学校から部活動
- ・強い部活動(技術+人格形成+強い気持ち)　・合同部活動(クラブ)
- ・図書室で小・中の子どもたちが笑顔でのふれあいができるといいな
- ・低学年児のフォローを上級生ができたり、その上級生の姿を低学年児が理想とし、憧れをもてるように　・小学生と中学生がふれあうイベントをやってほしい
- ・上級生から下級生と一緒に活動できる場をつくってほしい(例:学校菜園などの担当をたて割りにしてみる)　・たてわり遠足　・全員でおにごっこ(真鶴町中で)
- ・学校の体育館がなく町立体育館を使うと、子どもだけの活動が少なくなってしまうのか心配
- ・園・小・中の先生みんなで真鶴の子を育てる意識

### <学習>

- ・上級生が下級生に教える授業　・関わり合う勉強　・一緒に勉強する
- ・得意なこと、ちょっと苦手なことで学年関係なく選んで参加できる授業
- ・さんすうのかんがえかたをひろげる　・合同授業　・合同勉強会
- ・マイ・チャレンジ(挑戦することを決めて、取り組み発表し認め合う)
- ・日本の道徳心をもってもらおう　・いろいろな学習の交流、教え合う
- ・放課後等の時間で中学生が小学生に学習を教えることができるといいな(図書室などを使って)　・全学年で勉強、教え合い　・なかよし勉強会　・自分の好きな場所での学習
- ・好きな場所で授業をうける　・定期テストを小学生から
- ・数年単位で1つのことを探究・極める　・探究学習を全学年の中で好きなメンバーとやる
- ・異学年の子どもたちの共同研究、自由研究　・総合学習を他学年と行う
- ・学年問わず子どもが授業を選んで学ぶ　・学年に関係のない朝の会
- ・低学年時の学び残しをいつでも振り返って学び直しができるように
- ・子どもたち自ら考え学ぶ学校(時には子どもの自主性を重んじ、自ら授業を考える機会があるといいと思う)　・1つのテーマを決めて、一緒に調べ、発表する
- ・考える機会のある学校(異学年交流等で教えることで、気づく学びもあると思う)
- ・異学年の交流(中学生が小学生に教える等)　・成績表がなかったらうれしいな
- ・中学校の専門性のある教師が小学校の教師と一緒に学習を考えることができるといいな

### <行事>

- ・運動会　・大規模運動会　・町全体の運動会　・園・小・中・地域を巻き込んだ運動会
- ・合同学習活動発表会　・全校で学習発表会を行う　・音楽朝会(歌う、演奏、合奏)
- ・多目的教室での異年齢同士の音楽会などの催し　・音楽室でコンサート

- ・合同で発表会(歌、劇など) ・文化祭(地域の人を招いて)
- ・小学生と中学生でマナフェスをやりたい ・合同レクリエーション
- ・リトミック ・9学年を3チームに分けて対抗行事 ・学園祭のようなおまつり
- ・学年横断のスポーツ大会で、上級生は下級生をフォローすることで弱者に対する扶助の精神を学んでほしい

### <生活>

- ・近所で集まって登校 ・約束を自分たちでつくる ・クラブ活動を生徒が運営する
- ・修学旅行を自分たちで計画・予約する ・ゴロゴロスペースがあったらいいな
- ・何でも自分で決められるといいな(机、げた箱、教材、席etc)
- ・ほけんしつときゅうしょくのたんとうがやさしいひと
- ・休けい場所があったらいいな(ソファやカフェetc) ・外にベンチ
- ・学校の中で必要な物を生徒が作れる環境づくり(ウッドデッキ→大工道具、カーテン→ミシン)

## ◆「学校と地域との連携強化(ヨコの関係)

### <交流>

- ・学校を通して町中がひとつになり、明るく楽しい町ができればよいと思います
- ・子どもが主役の場所づくり ・学校主催の祭り(子どもたちが運営)
- ・全校でボランティア活動に参加 ・意見をお互い言える環境 ・町民の方々との交流
- ・交流できるコミュニティの場 ・近所の人との交流会 ・地域の人と大運動会
- ・図書館を大きくしてイベントを地域ぐるみで ・「地域と関わる」がコンセプトの活動
- ・幼稚園・地域(高校生、大学生、社会人)との交流、その核としての学校
- ・大学生(高校生)による、図書室やグラウンド、体育館での行事
- ・地域の方々による趣味の講座 ・1日校長体験 ・読書会
- ・地域の方とレゴ大会、魚釣り、焚火(なるべくフラットな場をつくる)
- ・町の人がイベントしやすい場(厳しいルールがない) ・地域の方も一緒に学べるイベント
- ・いろいろな人々と交流する(世代、職業、考え等) ・町民も参加できるような学校、授業

### <子どもの居場所>

- ・子どもにとって優しい居場所づくり ・心が休まる居場所(校舎内外)
- ・子ども会復活!(小～中ひっくるめて) ・困った時にすぐに相談できる場をつくる
- ・町民全体が見守り隊になる(必要なときに助けられる人)
- ・空き教室等を利用して現在の寺子屋や土曜教室のような少人数の学習指導ができる
- ・何でも好きなことができる(部活・同好会) ・子どもたちを見守る大人になりたい

### <気軽に寄れる学校>

- ・「地域と関わる」がコンセプトの場所 ・学校と地域をむすぶ時間
- ・卒業生がふらっと立ち寄れる場所 ・町の子どもたちの様子をいつでも見に行ける場所
- ・感謝をもつよう教えてもらった(1つ1つが自分の力になる) ・放課後カフェ
- ・地域の方が来校しやすい開かれた学校 ・外のお客さんが休憩などで入りやすい場
- ・観光案内で見学できる場所 ・小中に限らず全世代が活用できる場と環境
- ・地域の人が自転車を借りられる場(レンタサイクル)
- ・学校というだけではない場としての活用

## <防災>

- ・全体での避難訓練　・子どもたちの防災をしっかりと守ってほしい
- ・学校に宿泊する(防災・避難の訓練)　・校内で宿泊体験(防災の時に備えるため)

## ◆「半島全体を学びの場とする新たな教育の創造(ナナメの関係)」

### <真鶴の人を生かす>

- ・町民全員が子どもたちに何かを教えられる場所、子どもたちからも学べる場所
- ・町民授業(町に住む人から学んだり体験したりする)
- ・子どもも大人も一緒に町づくりを考える　・小学生から職場体験
- ・真鶴で学びたいと思う人をたくさん増やす学び舎にしたい(移住のめだま)
- ・地域の方のボランティア講師　・地域の方がたくさん関わる学習　・地域の方との交流
- ・町のいろいろな技能をもった人の活用　・町の宿泊業の方が協力して宿泊体験ができる
- ・ボランティア証明書を発行してくれるサービス(学びをしてくれた人への恩恵)
- ・一緒に働く授業(店、作業、活動)　・商売と教育の融合　・学校の中で起業する
- ・その道のプロに話が聞ける(子どもも先生も学べる場)　・伝統科　・芸術科
- ・地域の芸術家さんたちと交流→絵画や書道などの指導がうけられる
- ・地域の老人や障害のある人々との交流　・町の中で働く人々を訪ねて真鶴のことを知る

### <真鶴の環境・資源を生かす>

- ・町の課題を解決する学び(名産品を生み出す、公園・都市整備、企業の誘致、デッドスペースの利活用、ポスター作成)　・地域資源を活用した授業(系統的なふるさと教育)
- ・自然の中で遊び、何かを発見する(お林、海)　・魚の料理ができたら
- ・みんなで畑!→「地産地消」の給食を食べる　・地元の食材だけでつくる給食
- ・ミカンさいばいができるよう地域の人に教えてもらう　・教室以外の場所での学習
- ・石をつかって多くの人に良さをわかってもらう(小松石)　・フィールドワーク
- ・1つの製品を買うのに、多くの人の方で自分が買うことができることに気づく学び
- ・身近なところに緑(自然)や生き物と関われる　・地域のよさを学校で学ぶ(地域資源)
- ・畑でとれたもの、海でとれたものを使って調理　・真鶴かるたを文化に
- ・真鶴の文化を学ぶ→「真鶴かるた」を一つの媒体として下級生は一つ一つの項目を、上級生はそれぞれを深めた学習ができるように
- ・観光学　・真鶴の歴史を学ぶ勉強会(地域・一般の方も参加できる)
- ・真鶴の「美の基準」について、年齢に合った学びを重ねる
- ・自分たちで考えて真鶴まち歩きプランをつくる(おすすめスポットをアピールする)
- ・知識だけでなく生きた経験等が実践できる　・学校の外へ出て体験授業

### <つながり>

- ・湯河原や小田原との交流(閉鎖的にならないために)
- ・オンラインでの学習(他の学校、海外)　・異国の人達と会話する(言語+文化)

### <環境づくり>

- ・ジャンルごとの図書室(タブレット検索)　・ほしい情報が手に入る環境
- ・子どもたちの好奇心が満たされる場　・個人のあり方が尊重される
- ・遊べる場所を増やしてほしい

## 教育長のあいさつ

- 一昨年7月に始めた「教育を語り合う会」も、今回を一つの区切りとして最終回とさせていただいた。学校教育を社会教育のステージで語り合うということ、コンセプトとして行ってきた。
- 新しい学校づくりに向けて、この2年間、厳密に言えば3年間取り組み、今年度中に「基本構想・基本計画」を作り上げるところまできた。先日までパブリックコメントを実施してきた。かなりキツイご意見もあったが、それだけ皆さんが関心を寄せてくださっているのだと思っている。少しでも反映させていきたい。
- さて、この「基本構想・基本計画(案)」の中に、みんなの思いが詰まっているわけだが、その象徴的な言葉が、表題になっている「半島まるごと学校」。この言葉は、建設準備委員会の委員の方から出された言葉で、委員の皆さんが賛同された言葉である。
- その言葉の意味は、冒頭に塩田からも説明があったが、教育や学ぶ場は学校(校舎)だけでなく、町全体、半島全体が学校であるということ。しかしそれは、別の見方をすると、半島全体が学校であれば、半島に住む町民全員が、子どもたちの先生であるということ。
- 私が考える一番理想としたい学校は、子どもたちがこの真鶴半島で成長するだけでなく、子どもと関わることによって町の大人たちも、一緒に成長する学校でありたいということ。
- この「基本構想・基本計画(案)」の中にも、自己肯定感を醸成しようとか、非認知能力の育成が大事だとか、主体性を育てようとか、コミュニティスクールがその中心になるとか、いろいろなキーワードを盛り込んでいるが、それはいろいろなどころで言われていること。大人も成長する学校でありたいという考え方は、自分のオリジナルであり、一番大切にしたいこと。冊子の13ページに書いている。
- 子どもたちには素晴らしいエネルギーがあり、みんな大きな可能性を秘めている。セキュリティの問題はあるが、5班からの発表にもあったように、多くの大人たちが学校に出入りし、それによって子どもの学びが深まり、大人も刺激を受けて成長する。そんな学校をめざしたい。
- これからの教育は、教員も含めた大人が子どもを教える、育てるという従来の構図ではなく、子どもたちとの関わりを通じて、大人も成長するという構想のもとに展開されるものだと思う。これからは、社会教育の視点を取り入れた学校経営が求められていると思う。
- 最後に、「基本構想・基本計画」が出来上がったといっても、まだ第1コーナーも回っていないくらいだと思っている。これからの道のりは、まだまだ長い。それを乗り越えるためには、ここにいる皆さんからのご支援、ご協力が必要。大きな自治体であれば、学校建設のための課を作ったり、室を設けたりしている。しかし、真鶴町ではそれは難しく、教育総務課の中に数人の担当者を置いて進めている。少ない人数で頑張っている。どうか応援してあげて欲しい。よろしくお願いします。

## 振り返りアンケート(感想は次の通り)

大変良かった 36名 よかった 11名 ふつう 0名 よくなかった 1名

- ・地域に住む者が教育を自分事として考えられる機会となりました。町民全員がそういう気持ちになってワクワクできるといいなと思いました。参加させていただきありがとうございました。
- ・最初で最後の参加になってしまったのですが、とても良い話ができたとします。真鶴を愛する方々と今後の子供達のための教育現場を深く考えることでより地域への関心が高まる場所でした。
- ・教育長の熱い想いが伝わりました。応援しています。
- ・「半島まるごと学校」とても素晴らしいネーミングだと思います。だからこそ「町民みんなが先生」だという言葉も心に響きました。子どもが主役ですが、地域と協働してよりよい学校をつくっていただけたらと思います。
- ・教育について熱心に考える人がたくさんいることがわかった。多世代の人の話を聞く機会を持って、話しやすい雰囲気でも子どもたちの話も聞けたことがとても良かったです。学校に通っている現役の子どもたちにも新しい学校について同じテーマで聞いてみてもらえたらいいなと思いました。
- ・皆で新しい学校への思いが共有できたことは非常に良かったと思います。地域に開かれ、地域と共にある学校は町民の多くの人の願いかと思えます。皆の思いが形になる日を楽しみにしています。
- ・皆様いろいろな考え方があり、有意義な集まりでした。子供さんたちもしっかりとした意見をもって良かったと思います。この先も何らかの方法での意見交換ができることを願っています。
- ・当事者である子どもたちがたくさん参加して下さったことが嬉しかった。大人の目では気づかないことを教えられ、ハッとしました。毎回工夫された内容・進行で楽しませて頂いたこと、ありがとうございました。
- ・一人一人の思いや考えを発表する場があつてよかった。グループの中に子どもがいて、子どもの考えを尊重しながらグループの考えを広げること、まとめることができました。とても良かったです。事務局の方々の準備・運営・まとめ等お世話になりありがとうございました。
- ・私は、今日この会議に出てどんな学校になるかが楽しみになりました。つぎの学校が楽しみになりました。
- ・いろいろな立場の方と真鶴町について語り合えたことは、とてもよい機会でした。様々な思いが交じり合って半島まるごと学校はつくられていくと思うとワクワクしました。
- ・いつもオレははっぴょうとかしていないけど、こういうばではっぴょうできてよかった。
- ・最初で最後の参加になってしまったのですが、とても良い話ができたとします。真鶴を愛する方々と今後の子供達のための教育現場を深く考えることでより地域への関心が高まる場所でした。
- ・教育を語り合う会は、今後も定期的に開催していただきたい。一年度に1～数回の開催を希望します。コンピュータのアプリは、バージョン1.0は普通はなくて、0.9、その次0.91→0.99に向かい、次は0.991…等となり、0.999…は1.0に限りなく近づくものです。よろしくご検討ください。
- ・初参加でしたが、参加できて良かったです。さくさんの方のいろいろな意見・考え・熱量に触れ、方向性も見えて良かったです。
- ・町民の方(大人も子どもも)や町外の方と沢山真鶴町の良さや今後の学校についての話をすることができて充実した2時間でした。1人ずつのスピーチもすごく良かったです。(ドキドキでしたが)ありがとうございました。
- ・様々な立場の皆様と真鶴の教育、未来を語り合えてうれしかったです。ありがとうございました。

た。

- ・町の方や小学生、高校生の生の声を聞くことができ、充実した会になりました。町の方々の真鶴に対する熱い思い・考え方がとても伝わりました。ワクワクするような話し合いができましたが、「子どもが主演」ということを忘れず、しっかりと耳を傾け、子どもの声を聞いていきたい。
- ・教育を語り合う会を通して私は、自分以外の人と語り合うことで自分では考えつかないことをたくさん聞けるということを改めて感じました。真鶴町民として、また語り合う会に参加したいと思いました。
- ・世代を越えた意見が多く出され、今後も継続していただきたいと思います。
- ・さまざまな立場の人、年齢の人と話し合えてとてもすばらしい機会だと感じました。意見の発表ももちろん、見て回れる時間があつたらなと少し思いました。
- ・いろんなことを知れてとてもたのしかった。いろんな人のいけんも知れてよかった。
- ・小中一貫校について話し合えてよかったです。
- ・様々な立場の方とお話ができ、みんなで考えることがとても楽しかったです。
- ・急に参加することになったのですが、普段考えないことを考えられた有意義な時間でした。
- ・かんそうがうまくいえてよかったです。学校づくりがんばってください。
- ・ゲストハウスを運営している身として、商売と教育をつなげようと考えている人が多くてうれしかった。
- ・小学生とも話をたくさんすることができ、小学生の立場でも考えることができた。
- ・これからもみんなで協力していきたい。
- ・理想の学校づくりに対する意見等をラフに出せる場に参加でき、良かったと思う。次のステップとして、あわせて危惧される課題などに踏み込んだ意見交換も出来ればなど思いました。
- ・教育長の熱い想いを感じました。
- ・いろんな考えがあった。
- ・多様な意見でもあり、でもよく考えると共通項が多いと感じました。「言葉は色々、思いは一緒」ということを再確認する会でした。
- ・回を重ねるたびに学生の参加が増えてきてよかった。子ども達の声が実現できるような学校をつくっていけると良いです。ありがとうございました。
- ・いろいろな立場の方の話を聞くことが出来てよかった。真鶴は点でがんばっているが、線や面になっていない印象が強いです。今後一貫校をつくるにあたり、引っ張る人、コーディネーターの人が必須と感じました。
- ・途中からの参加でしたが、皆の温かい熱意が伝わってきてとてもいい会だったと思います。集まった年代層も幅広く、貴重な意見が多くあったと思います。有効に活かしてください。
- ・最後の教育長さまの熱い思いが伝わりました。大人も子供も共に育つ学校となるようにできることをしていきたいと思います。
- ・言いたいことをすべて言えました。
- ・ピラミッド型組織の見直しと各個人での意見をよく知ることが大事だと思います。老若男女を問わず、自分でできることは必ず行う。
- ・いろいろな年代、立場の方々とコミュニケーションがとれた。教育長さんのお考えが伝わった。
- ・みんなの意見でこれからは楽しくなるし、話せてよかった。